

魚病原菌の薬剤感受性試験（平成 23 年度）

渡邊 長生

目 的

県内のサケ科魚類に多く発生する細菌性疾患には、せつそう病、ビブリオ病、冷水病がある。これらの治療には、水産用医薬品が使用されている。しかしながら、医薬品の使用は薬剤耐性株を出現しやすくすることから、的確な魚病指導を行うためには細菌の薬剤感受性を把握しておく必要がある。そこで、本試験では、魚病検査で分離された冷水病菌株の薬剤感受性を調査し、魚病指導のためのデータを蓄積した。

材料および方法

病原体の分離 細菌はトリプトソーヤ寒天培地（ニッスイ）、改変サイトファーガ寒天培地を使用し、15℃または20℃にて分離培養した。

薬剤感受性試験 分離された冷水病原菌 *Flavobacterium psychrophilum* について、ディスク法により感受性を検査した。

結果および考察

今年度は冷水病原菌 4 菌株の薬剤感受性試験を行い、その結果を表 1 に示した。例年のとおりスルファモノトキシンでは 3 株において耐性菌が出現し、投薬の効果が期待できなくなっている。また、フロルフェニコールおよびスルフィゾゾールにおいても 1 菌株ずつ耐性菌が出現していた。医薬品に依存した魚病対策は、耐性菌出現により投与効果が期待できなくなることもあるため、今後は防疫や予防対策を強化していく必要がある。

表1 冷水病原菌の薬剤感受性試験結果

	+++	++	+	-
(冷水病原菌)				
塩酸オキシテトラサイクリン	4			
オキシリン酸	4			
フロルフェニコール	3			1
スルファモノトキシン			1	3
スルフィゾゾール	3			1

(水産技術部)